

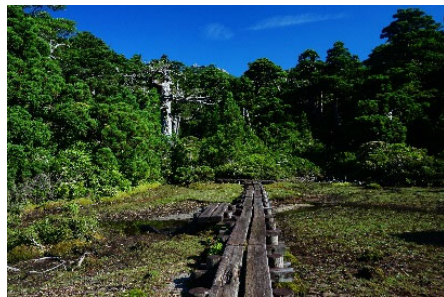
屋久島は日本列島の南に位置するとともに標高約2,000 mの山岳を有することから、南北に長い日本の自然植生の特徴を一つの島の中で見ることができる。海岸沿いの亜熱帯植物から始まり、標高が上がるにつれスダジイなどの照葉樹林、スギを中心とした温帯性針葉樹林、山頂付近には冷温帯性ササ草原や高層湿原、亜高山帯の低木林と連続する植生の垂直分布に日本の自然植生が凝縮されている。また年間降水量は8,000mmを超え、湿度の高い気候でも腐りにくい「ヤクスギ」と呼ばれる樹齢1,000年以上の天然スギが多く生育し、高湿度の環境に適応したホソバハグマ等の溪流植物や着生植物とともに、世界に類を見ない特異な森林景観が見られる。

## 屋久島の景観

ヤクスギ天然林のほか、高層湿原や山岳、美しい川や滝など多くの名所を楽しむことができる。



縄文杉



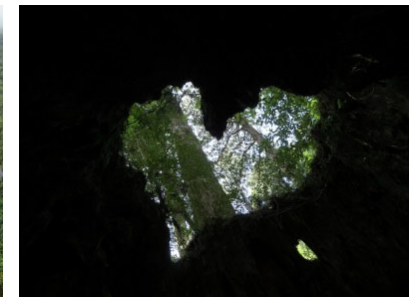
高層湿原 (心花之江河)



高盤岳とうふ岩



千尋の滝



ウイルソン株

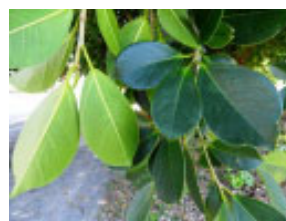
※世界自然遺産区域外

## 多様な植生の垂直分布

ササ草原、高層湿原、低木林 (ヤクシマシャクナゲ等)  
温帯性針葉樹林 (スギ、モミ、ツガ)  
照葉樹林 (シイ類、カシ類)  
亜熱帯植物 (アコウ、ガジュマル)



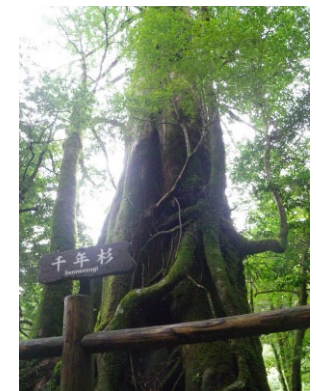
ヤクシマシャクナゲ



ガジュマル

## 屋久島自然休養林

「荒川地区」(通称: ヤクスギランド)と「白谷地区」(通称: 白谷雲水峡)の2カ所からなり、遺産区域外であるが、ヤクスギを含む森林を比較的容易に鑑賞できる。

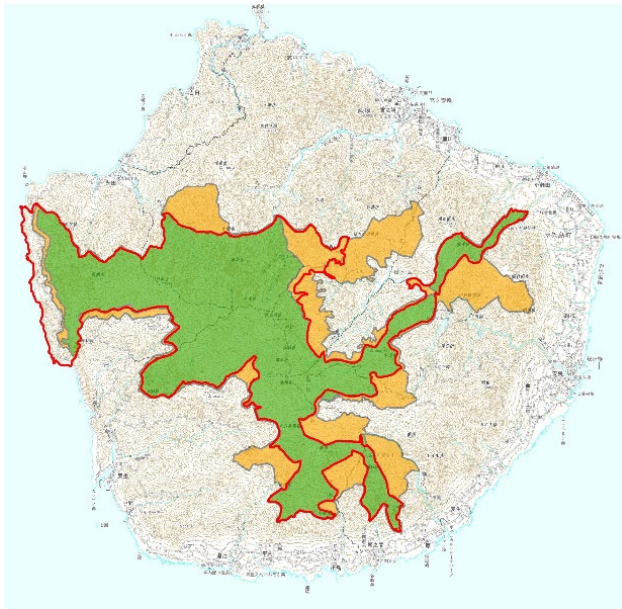


千年杉

# 「屋久島」における林野庁の取組

- 屋久島全域の約30%、屋久島の国有林野の約40%に当たる約1万5千haを1992(H4)年3月に「森林生態系保護地域」に設定。
- ヤクスギの樹勢回復、ヤクシカによる食害対策、高層湿原の保全対策等により適切に保護・管理。

## 屋久島 森林生態系保護地域



□ 遺産地域面積：10,747ha  
(すべて核心地域)

遺産地域における  
国有林野面積：10,260ha

森林生態系保護地域

■ 保存地区：9,600ha  
■ 保全利用地区：5,585ha

## ヤクスギの樹勢回復

- 登山者の踏圧等による樹根の露出や土壌の踏み固めが樹勢に影響  
→樹勢の診断、治療を実施



縄文杉大枝腐朽調査

## 高層湿原の保全対策

- 登山者による踏圧、ヤクシカによる食害等により湿原の状態が急激に悪化  
↓
- 植生保護柵の設置、植生や流路等のモニタリング調査を実施



高層湿原 (小花之江河)

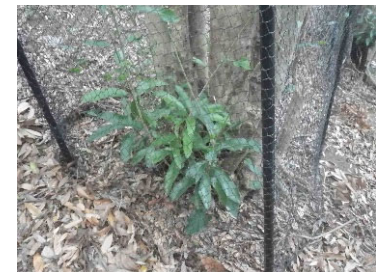
## ヤクシカによる食害対策

- 採食圧による森林の植生や希少植物の生育等への影響  
↓
- 2010 (H22) 年に研究機関及び関係行政機関による「ヤクシカワーキンググループ」を設置



ヤクシカによる食害の様子 (高層湿原)

- 林野庁では以下の取組を実施
  - ①ヤクシカの生息・移動状況調査、植生モニタリング調査、ヤクシカ嗜好植物試験
  - ②ヤクシカの捕獲、植生保護柵の設置
  - ③協定による地元猟友会へのくくりワナの貸出し



植生保護柵